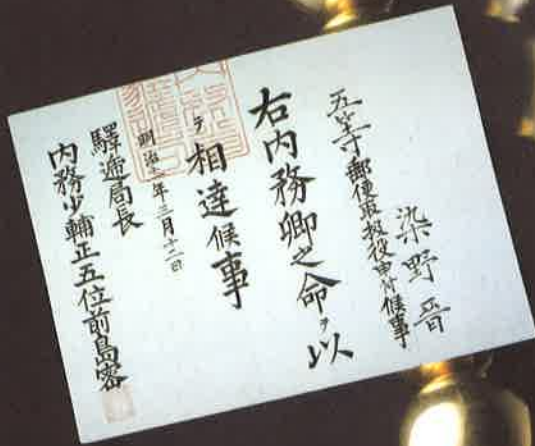


取手市埋蔵文化財センター開館3周年記念企画展

# 水戸街道と取手宿本陣



平成14年10月22日[火]→12月20日[金]

午前10時～午後4時30分(入館は4時まで)

入館無料/休館日 月曜日

(ただし11月4日は開館して、翌5日が休館)

## 開催にあたって

取手市埋蔵文化財センターは、おかげさまで平成14年9月をもちまして、開館3周年を迎えることとなりました。当埋蔵文化財センターは、平成11年9月の開館以来、取手市の埋蔵文化財行政の中核として、発掘調査体制の充実・一本化を実現し、『取手市内遺跡発掘調査報告書』などを発刊してまいりました。また埋蔵文化財関係のみならず、市史編さん事業から引き継いだ歴史資料の保存・整理や、未指定文化財調査の一環として市内の仏像調査などにも取り組んでまいりました。展示活動も、7回の企画展、2回の資料展を実施しており、毎回たくさんの方々にお出でいただき、ご高評をいただいております。

今回は開館3周年を記念して、水戸街道の重要な宿場町として栄えた取手のシンボル『旧取手宿本陣』にスポットを当てた企画展を、開催することとなりました。歴史的な街『取手』をより身近に感じていただくとともに、埋蔵文化財センターの多彩な活動にも今後一層のご理解とご協力をお願いし、開催のあいさつにかえさせていただきます。

平成14年10月

取手市埋蔵文化財センター

### 講演会

#### 「本陣の建築について」

濱島正士氏 元国立歴史民俗博物館教授

日時 11月4日(月)

午後2時から3時まで

場所 旧取手宿本陣染野家住宅

定員 50名 当日受付順

#### 「徳川光圀名君？」

吉田俊純氏 東京家政学院筑波女子大学教授

日時 12月7日(土)

午後1時30分から3時まで

場所 埋蔵文化財センター2階講座室

定員 40名 当日受付順

### 歴史講座

#### 「水戸街道と取手宿の成立」

埋蔵文化財センター職員

日時 11月23日(土)

午後1時30分から3時まで

場所 埋蔵文化財センター2階講座室

定員 40名 当日受付順

### 展示説明

10月26・27、11月9・10・23・24、12月7・8日

午前11時と午後2時からの2回

(ただし11月23日と12月7日は午前1回のみ)

## 例言

1. このパンフレットは、平成14年10月22日から12月20日まで開催される取手市埋蔵文化財センター開館3周年記念企画展「水戸街道と取手宿本陣」にともない、発行されたものです。
2. この企画展の企画とパンフレットの執筆・編集は、当センター職員の飯島章と生涯学習課文化財係の本橋弘美が担当し、その他職員の協力を得ました。
3. この企画展の開催にあたり、次の方々からのご協力とご助言をいただきました(敬称略)。

飯野雄一、石引守正、繪鳩昌之、海老原恒久、岡嶋信夫、小熊正光、小高昭一、柿沼三喜夫、川眞田桂子、木塚久仁子、小林たま子、斉藤洋一、澤田平、杉澤萬造、染野修、染野亮子、染野美智子、高山清、但野正弘、田中亮、寺田恂、徳川慶朝、長塚重雄、中山文人、根本直治、野口幸子、広瀬誠之、福岡小夜子、福原進、藪内吉彦、湯原長武、秋田県立図書館、足立区立郷土博物館、我孫子市史編さん室、茨城県立歴史館、印西市史編さん室、北澤売店、宮内庁書陵部、弘経寺、(財)水府明徳会徳川博物館、堺鉄砲研究会、土浦市立博物館、通信総合博物館、独立行政法人国立公文書館、成田山靈光館、松戸市立博物館、松戸市戸定歴史館、大和市教育委員会、大和市つる舞の里歴史資料館、郵便史研究会、龍ヶ崎市歴史民俗資料館、龍禅寺船橋市西図書館

## 1. 文化財の指定と修理工事

旧水戸街道に現存する本陣は、旧松戸宿本陣（松戸市）、旧中貫宿本陣（土浦市）、旧稲吉宿本陣（千代田町）、そして旧取手宿本陣の4か所しかありません。

旧取手宿本陣は、その中でも建築年代が寛政7年（1795）と最も古く、また規模も最大であるため、古くから文化財的価値が認められていました。取手市では、昭和50年（1975）から保存と文化財の指定に向けて、所有者である本陣のご子孫染野家と協議を重ねてきました。そして昭和62年1月1日、取手市は旧取手宿本陣の歴史的価値を最大限に活かすため、史跡として文化財の指定をします。

また、それまでの度重なる協議と市の史跡指定を受け、その年の5月、染野家は史跡指定地内の主屋、土蔵、表門と、徳川斉昭の歌碑を取手市に寄贈しました。これらの寄贈を受けた取手市では、本陣の保存と一般公開に向けて、昭和62年度から平成8年度にかけて大規模な修理工事を実施しました。

修理工事がほぼ完了した平成8年（1996）1月25日、旧取手宿本陣染野家住宅（主屋と土蔵）は茨城県指定有形文化財（建造物）に指定されました。

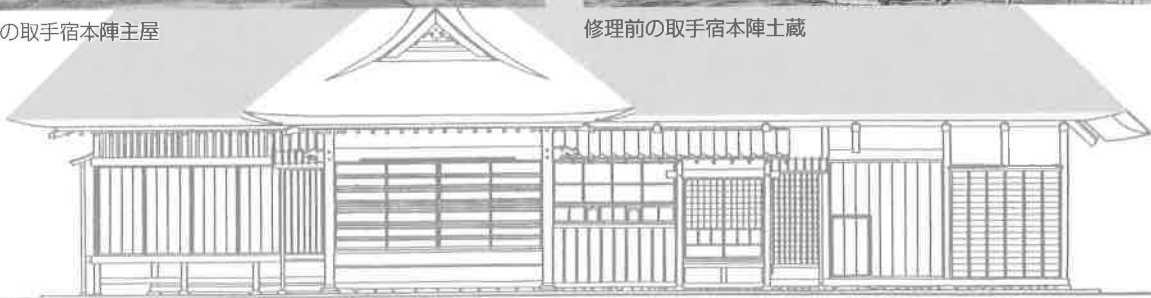
また県指定化とともに修理工事の完了が待たれていた常時一般公開も、平成9年9月から開始され、週3日の公開日には多くの見学者が訪れ、当時を偲んでいます。



修理前の取手宿本陣主屋



修理前の取手宿本陣土蔵



## 2. 水戸街道と取手宿の成立

取手に残る交通関係の史料でもっとも古いものは、弘経寺が所蔵する慶長18年（1613）3月の徳川家康の伝馬の朱印状です。これは徳川家康が、駿府から相馬までの宿に伝馬五疋の提供を命じたもので、大鹿村が街道沿いで宿駅の機能をはたしていたことがわかります。

寛文6年（1666）の絵図（写真は裏表紙）によると、取手の町並みは、守谷と佐倉を結ぶ「佐倉道」にそって、現在の八坂神社から利根川の河原の方に向かってありました。ところが寛文6年の利根川の大洪水で被害を受けたため、利根川に平行する町並みに改められたのです。



ところで江戸時代はじめの水戸街道は、我孫子からは東に向かい、布佐で利根川を渡り、布川から北に向かっていた。この街道沿いには、今もなお一里塚の跡や伝承地が残り、江戸時代の初めには重要な道であったことがわかります。この街道が、後に我孫子から北上して利根川を渡り、取手から藤代へ達するように改められたのです。この街道の付け替えにともない、大鹿村の人びとは街道沿いに移住してきました。大鹿村の移住は元禄10年(1697)には終了したようで、この時から利根川の渡船場が現在の大利根橋のあたりに設けられました。

染野家が水戸徳川家から本陣に指定されたのは、貞享4年(1687)のこととされています。染野家は、江戸時代の初めに取手に移住して新田開発を行ない、以後代々名主を勤めました。さて取手に残る史料から確認できる最初の水戸藩主の通行は、天和2年(1682)10月の2代藩主の徳川光圀が江戸から水戸に向かった時です。しかし延宝6年(1678)2月に水戸から江戸に戻る光圀が、藤代の本陣に宿泊したとの記録があるようです。そうであれば、天和2年以前にも光圀が取手を通ったのは確実です。また天和3年に水戸から江戸に戻る光圀は、潮来から船で利根川を上り布佐で上陸しています。ですから天和2年以降も、かならず水戸藩主が取手を通るようになったわけではないようです。

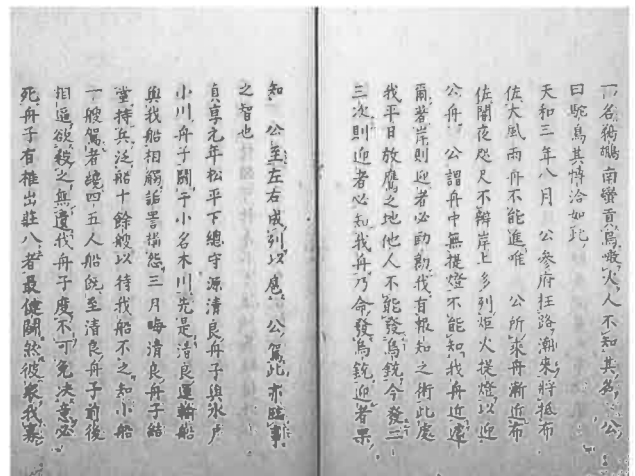


慶長18年3月  
徳川家康伝馬の朱印状  
(弘経寺所蔵)

元禄14年4月 我孫子町助郷人馬につき訴状  
我孫子町近辺の助郷の30か村が、大名などの通行の際に人馬を少ししか出さないで、我孫子町の3名がこの30か村を勘定奉行所に訴え出した訴状です。この頃には、水戸街道は我孫子から取手に至る経路になっていたことが、うかがえます。

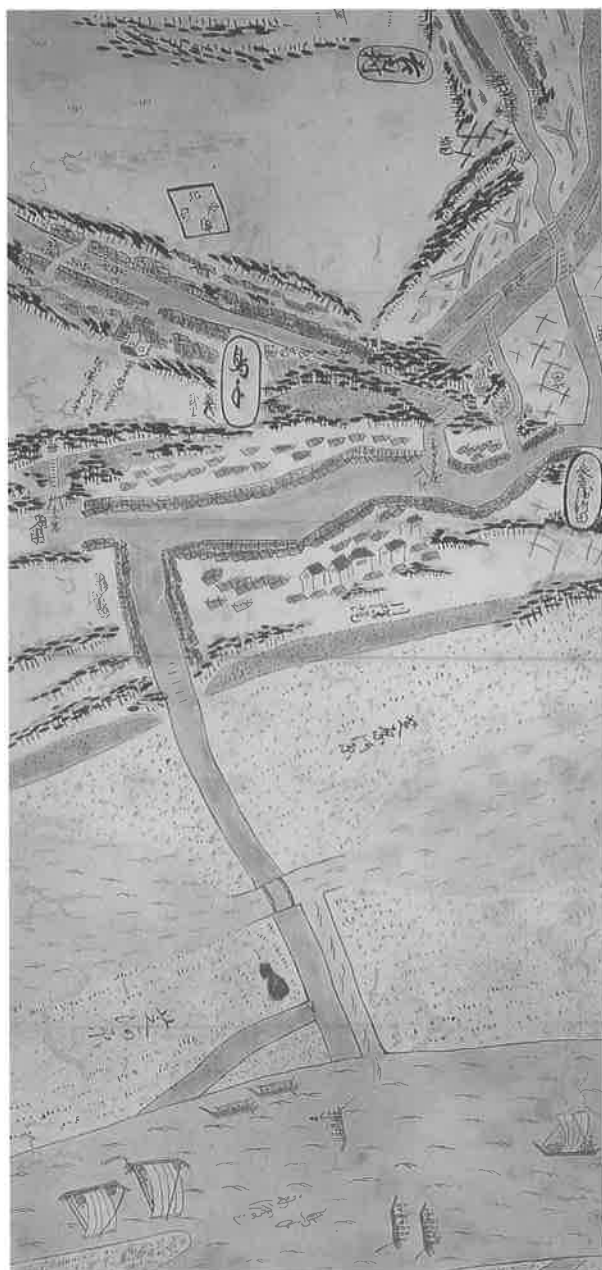


天和3年2月2日 取手宿人馬継立等につき覚(染野修家文書)  
取手宿の名主と問屋が、人馬の継立の状況を幕府代官の手代に報告しているものです。当時の取手は、我孫子・藤代・守谷・布川・龍ヶ崎の5か所に人馬の継立を行なっていました。



西山遺事(茨城県立歴史館所蔵)  
彰考館総裁も勤めた安積覚(水戸黄門漫遊記の格さんのモデル)が、光圀のそば近くに仕えていた人びとの記録を整理してまとめたものです。ここには、天和3年8月に水戸から江戸に戻る光圀が潮来から舟に乗り、布佐で上陸したことが書かれています。

### 3. 描かれた水戸街道



宝暦8年9月 土浦道中絵図(柿沼三喜夫家所蔵)  
展示では、土浦市立博物館所蔵の複製を利用しています。

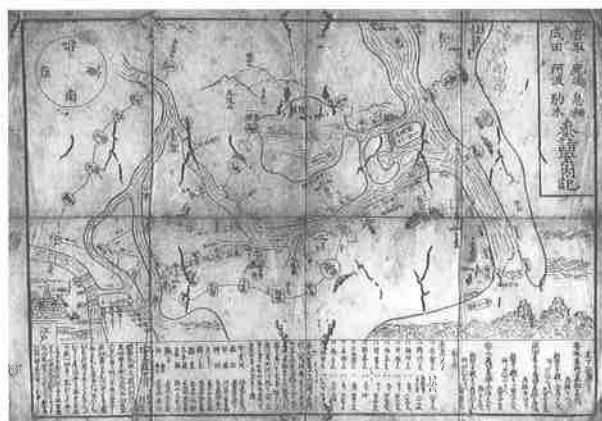
水戸街道を絵画的に描いた資料は、あまり多くありません。

徳川幕府が作成した「五街道其外分間延絵図並見取絵図」の「水戸佐倉道分間延絵図」には江戸の千住から新宿まで、同じく「関宿通多功道見取絵図」には松戸から小金までが描かれていますが、残念なことに取手までは描かれていません。

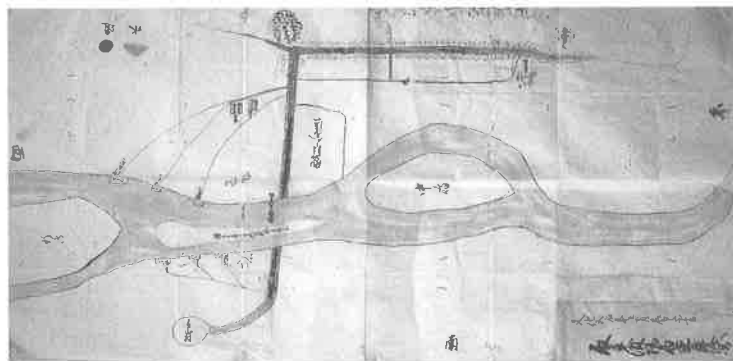
こうした中であって、土浦藩第4代藩主の土屋篤直が、宝暦8年(1758)9月に江戸から土浦へ向かう道中の景観を描いた「土浦道中絵図」は、大変に貴重なものです。この絵図には、千住から土浦藩領の北のはずれの中貫までの風景が、詳細かつ色彩豊かに描かれていて、当時の水戸街道の姿が見る人の眼前にせまってきます。

将軍の代替わりの際に幕府が派遣する巡見使の記録である「天保巡見日記」には、我孫子側から臨んだ利根川の渡船場と取手宿の姿が描かれています。利根川の渡船場の様子は、文化5年(1808)6月の「取手渡場宿並麓絵図」からも知られます。大名行列の渡船の際には、身分によって川を渡る場所が異なっていたことなどがわかる興味深い絵図です。

地図的な資料には、しばしば水戸街道が書かれています。「香取・鹿嶋・息栖・成田・阿波・駒木参詣案内記」などに、水戸街道の経路や宿場の名称が記されています。



香取・鹿嶋・息栖・成田・阿波・駒木参詣案内記(長塚重雄家文書)



文化5年6月 取手渡場宿並麓絵図(染野修家文書)

## 4. 水戸街道を通った人びと

取手宿と本陣にとって一番ゆかりの深い水戸藩主は、第9代の徳川斉昭です。天保5年(1834)4月、水戸から江戸に戻る道中に取手宿本陣で休息した斉昭は、壁紙に使っていた文谷筆の瀧の絵に「山姫の衣やさらす 春過て 夏きてそ見る しろ妙の (瀧)」の和歌を書いています。この絵は後に壁からはがされて軸装され、現在も家宝として染野家に伝えられています。また天保11年1月、水戸に向かう斉昭は、利根川を渡る船中で和歌を2首詠みました。その晩は本陣に宿泊した斉昭は、翌朝和歌2首を上段の間の袋戸に貼り付けて出立しました。この和歌も後に軸装されて、染野家に家宝として伝えられています。さらに天保14年には、この内の1首「指て行 さほのとりのての 渡し舟 おもふかたへは とくつきにけり」を刻んだ歌碑が染野家に贈られ、今も本陣の裏山に建っています。

斉昭の藩政改革を支えた一人が、学者として水戸学や尊皇攘夷思想の広まりに大きな功績を残した藤田東湖です。東湖の詩作「回天詩史」には、「二十五回刀水(利根川)を渡る」とあり、東湖が何度も江戸と水戸の間を往復したことがわかります。

人だけではなく、大鹿村の領主である旗本松平上野介が、荷物を飛脚で送った時の荷札である「飛脚えんぷ会符」や、米ノ井にある龍禅寺が、將軍の代替わりの時に朱印状を運搬する際に使用した「朱印状会符」も、水戸街道を何回か行き来したと考えられます。



水戸中納言斉昭御初御入部行列之図(所蔵・写真提供 土浦市立博物館)  
天保4年に、徳川斉昭がはじめて水戸に入った時の行列の絵です。総勢千人を越す人びとが描かれ、水戸藩主の行列の盛大さが思われます。



藤田東湖書 蒼龍(広瀬誠之家所蔵)



松平上野介飛脚会符(根本直治家所蔵)

朱印状会符(龍禅寺所蔵)  
龍禅寺では、3代將軍徳川家光の時から三仏堂領として朱印地19石3斗を賜っています。

## 5. 近代化の旗手 染野晋

最後の名主と本陣を勤めたのが、染野晋之助<sup>すずむ</sup>です。晋之助は明治になると晋と改名し、葛飾県・印旛県・千葉県・茨城県の数々の公的な役職を歴任しています。明治11年(1878)12月からは北相馬郡書記となり、明治15年に広瀬誠一郎が郡長になるまで、郡長不在の北相馬郡役所の中心となりました。さらに明治22年には、初代の取手町長となっています。

また郵便制度が創設されると、染野晋は明治11年3月五等郵便取扱役に任命され(辞令の写真は表紙)、以後死去するまで郵便事業に従事します。本陣の建物の正面にある式台玄関の右側には、明治初期の郵便窓口の跡があります。染野家には郵便関係の史料も数多く伝えられていますが、その中でも光彩を放つのが郵便物保護銃です(現在は取手市教育委員会の所蔵)。郵便物保護銃は、郵便配達<sup>ゆうびん</sup>の職員が賊に襲われて、お金や郵便物が奪われる事件が多発したために携行させたものです。かなりの数の郵便物保護銃が全国の郵便局に交付されましたが、取手のものをふくめて残るものは全国で3挺しかない貴重品です。

染野晋は、明治27年に開業した取手銀行の頭取ともなり、明治45年には取手電燈株式会社の創立委員となり、企業の勃興や近代産業の育成の先頭に立ちました。

このように染野晋は、取手のみならず周辺地域の政治・経済・社会の近代化と発展に、大きな功績を残したのでした。



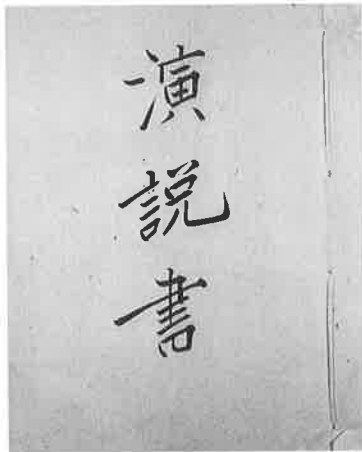
明治5年3月 郵便御用取扱につき印旛県郵便掛辞令  
明治5年7月1日からの全国一斉の郵便事業の開始に向けて、印旛県では各地の有力者に郵便御用取扱の辞令を交付しています。



染野家伝来郵便物保護銃(取手市教育委員会所蔵)  
フランスのドゥビズム社製の6連発銃です。



染野晋(染野修家所蔵)



明治15年3月6日 演説書(染野修家文書)  
北相馬郡書記で郡長心得となっていた染野修から、新たに北相馬郡長に就任した広瀬誠一郎への、郡役所事務の引継書です。



取手局使用記号入番号消印  
(染野修家所蔵)  
八は下総国をあらわし、35が取手局の番号です。記号入番号消印(記番印)は、明治7年12月から同12年11月までの、郵便創業期のごく短期間しか用いらなかった、大変にめずらしいものです。





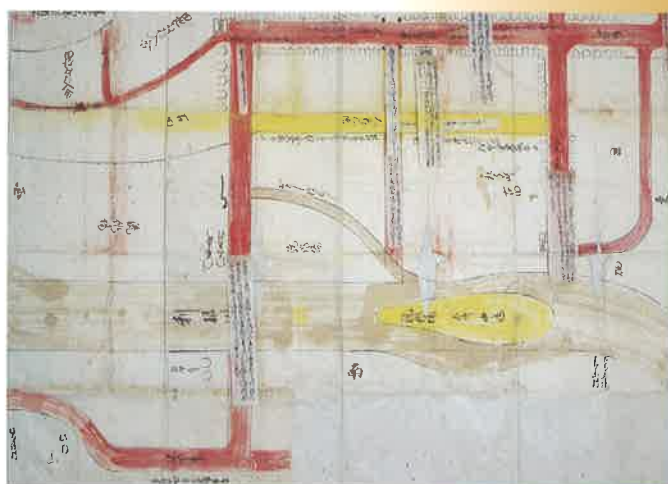
立原杏所筆徳川光圀(所蔵:写真提供 茨城県立歴史館)  
肖像の上には、「月は瑞龍の雲に隠るといども、光は暫く西山の峰に留まる」と書かれています。これは光圀がまだ存命中に、水戸徳川家の墓所瑞龍山に建てた墓碑(寿蔵碑)の裏面に彫られた自筆の文章「梅里先生碑陰文」の一節です。



徳川斉昭(所蔵/徳川慶朝家 写真提供/松戸市戸定歴史館)  
一橋家を継いだ我が子慶喜を訪問し琵琶を演奏した時の姿を、文久3年に渡辺咲之助(雪溪)が描いたものです。



寛文6年 取手宿絵図(染野修家文書)



明和8年 取手宿・大鹿村絵図(染野修家文書)

取手市埋蔵文化財センター開館3周年記念企画展

## 水戸街道と取手宿本陣

平成14年10月22日～12月20日

編集/発行 取手市埋蔵文化財センター  
制作/印刷 有限会社石山宣伝研究所